

# 第1回 統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点 国際シンポジウムを開催

九州大学 先端物質化学研究所 教授  
永島 英夫

平成26年11月27日(木)・28日(金)、筑紫キャンパスにおいて、炭素資源国際教育研究センター、エネルギー基盤技術国際教育研究センター、グリーンアジア国際リーダー教育センターの連携で第1回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点国際シンポジウムを開催しました。

本学の学内共同教育研究施設である炭素資源国際教育研究センター、エネルギー基盤技術国際教育研究センターは、グローバルCOEプログラム「新炭素資源学」(平成20～24年度)のコンセプトを具現化する持続的な社会構築のための、材料、デバイス、システムに関する先端研究拠点です。一方、九州大学博士課程教育リーダーディングプログラム「グリーンアジア国際戦略プログラム」を実施するグリーンアジア国際リーダー教育センターも同様のコンセプトで人材育成活動を行っており、3センターで連携拠点を形成し、協力して教育研究を実施しています。

本シンポジウムには、イギリス、中国、韓国、インドネシア、フィリピン、日本から講師を招へいし、約150名の教員や学生が参加して活発な討論が行われました。ノーベル賞候補者の呼び声も高い旭化成(株)フェローの吉野彰博士の蓄電技術に関する講演をはじめ、炭素資源の賢い利用とエネルギーの効率的な使用に関して、先端材料開発の重要性、そのデバイス化、システム化の将来性について多面的な議論が展開され、日本の今後の環境・エネルギー研究に大きな示唆を与えるシンポジウムとなりました。



▲参加者間で行われた議論の風景



▲吉野彰博士による講演



▲講師や主催者側関係者の集合写真